

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 齋藤 枝里

所属: 大分県立臼杵支援学校

記録日: H.28年 2月 24日

キーワード: 知的障がい 読み・書き 自己肯定感 コミュニケーション

【対象児の情報】

・学年: 高等部1年生 女子

・障害名: 知的障がい

・障害と困難の内容

- ・小学校5年程度の読み書きができ、時系列を追って短い文章を書くことができる。分からない漢字は、常に教師に尋ねる姿がある。また、文章を書く際は、書く内容を決めることや書き始めに時間がかかる。
- ・言葉が不明瞭で相手に伝わりにくいことがある。伝わらないと話している途中で諦めてしまうことが多いが、どうしても伝えたいことは手の平に書くなどして伝えようとする。
- ・不明瞭な言葉は、発音している通りに書いてしまうことがある。
- ・いくつか課題がある時は、何からしてよいか分からず、混乱する様子が見られる。箇条書きにして提示し、終わった事から順に自分で消していくことのようにすることで、落ち着いて取り組むことができる。
- ・選択をすることが苦手で、決めるまでにかかなりの時間を要する。
- ・新しいことなどは、一通り全体の流れを確認してから少しずつ参加する。
- ・潔癖な面があり、そこにこだわりなかなか活動に取り組めないことがある。

【活動目的】

・当初のねらい

自分に自信がなく、様々なことに挑戦してみたい気持ちは少しあるが、「どうせ私は…」と、諦める様子が多い生徒が、タブレットを活用することが意欲を高めることができるきっかけとなればと期待し、以下の3つのねらいを考えた。

- ① 数学の基礎的な学習を復習して定着を図り、生活の中で活用する。
- ② 自分が学習したことについて、意欲的に発表したり気持ちを表現したりすることができる。
- ③ しなければならないことを、自分で整理してやり遂げるようにする。

・実施期間: 平成27年5月～平成28年2月

・実施者: 齋藤枝里

・実施者と対象児の関係: 担任と生徒

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・数学に対して強い拒否反応があり、「数学・算数」という言葉を聞くと大きくため息をついたり、課題プリントは問題を解こうとはせず、最初から裏返して机に伏せたりする姿がある。1桁同士の足し算や引き算、掛け算なども解く様子が見られないが、小学生の頃は解いていたと保護者からは聞いている。
- ・文章の書き直しをする際、消しゴムで消している間に書き加える言葉を忘れ、混乱する様子がある。
- ・課題を解いている途中、一つひとつ正解しているか教師に確認し、正解していないと次に進めない。また、教師がそばについて学習を進めていくと、だんだんと意地になり学習が進まなくなることがある。
- ・褒められたことを素直に受け入れることができず、興奮した様子で教師や物に当たる様子が多く見られる。
- ・担任やよく関わる教師に対しては自分から話しかけることができるが、友だちに対しては自分から話しかけることは難しい。言葉が不明瞭なことから、自分の言葉が伝わりづらいと感じており、人前で発表などをするとき、俯いて黙ってしまう。
- ・興味のあることには積極的に取り組むが、それ以外のことに関しては、なかなか取り組もうとしない。
- ・自分の iPod touch を持っており、普段から SNS を利用している。その中では、自分の気持ちを素直に表現することができる。
- ・タブレットへの興味は強いが、活動の場面で自分だけが活用することは好きではない。



▲タブレットを使う時は、机の下でこっそと…

・活動の具体的内容

対象生徒が iPod touch を持っていることから、Windows タブレットと iPod touch を状況に応じて使い分けながら取り組んでいる。

①数学の学習に前向きに取り組むことができるようになるための取り組み。

金銭や時刻の学習などで、必要な時にタブレットを使っても良いという雰囲気作りをし、すぐに使えるように本人が扱いやすい位置に置いておくように促した。また、なるべく少ないお釣りをもらうための支払い方法を学習した後、iPhone のアプリ『能力+支払い技術検定』を活用して、授業で学んだことを楽しみながら復習ができるようにした。宿題では、『i 暗記』に自分で九九の問題を入れて、家庭で学習するようにした。



能力+支払い技術検定



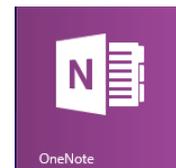
i 暗記



いまなんじ?

②友だちや教師の前で意欲的に発表したり、気持ちを表現したりするための取り組み。

運動会での校歌の指揮者となり、教師の手本を録画した物を家庭で見ながら練習を重ねた。また、本人が納得した上で指揮をしている様子を録画し、正確に指揮をするための振り返りとして活用した。行事の感想文や発表原稿などを、『Word』アプリを使って作成し、できたら教師にメールで送るようにした。作文を書く際に思い出を振り返ったりまとめたりするヒントシートを『OneNote』に作り、そこにキーボードで記入した。挨拶や発表方法は、以下3つの中から本人が選んで発表するようにした。



メモ



ボイスメモ

- a : Microsoft Word 読み上げソフトの和太鼓 (Wordaico) で再生。
- b : 発表内容を教師の声で iPod touch に録音し、再生。
- c : 対象生徒本人が自分の声で iPod touch に録音し、再生。

更に、表現の幅を広げるために、Keynote や PowerPoint、iMovie の活用練習を行った。

③することリストを作って自分で管理する取り組み。

iPod touch のリマインダーを活用して、1日の中で自分でしなければならないことを記入し、ToDo リストを作った。

終わったらチェックを入れて、残りの予定に見通しを持てるように取り組んだ。



メモ



リマインダー

・対象児の事後の変化

①数学の学習に関して

対象生徒だけでなく他の生徒もどんどんタブレットを活用しようという雰囲気を作ったことで、本人も安心してタブレットを使うことができた。

答えが不安な時も、タブレットを活用することで確実に解くことができるので、

一人で取り組むことができた。また、『能力+支払い技術検定』を使った際は、

意欲的に問題を取り組み、家庭でも自分の iPod touch に同じアプリを入れて学習

していた。授業中、他の友だちの支払い方を見て、「待って！こんな方法は？」と、

自分から手を挙げて支払い方法を提案する姿も見られた。授業の中で答えを言いたいと教師にアピールする意欲的な様子が増え、積極的に授業に参加することができている。自信もついてきたようで、今では計算問題はタブレットを使わずに筆算でどんどん答えを導き出そうとする様子もあり、非常に前向きである。

時刻の学習後は、「今は〇時〇分だから…〇分までに仕事を済ませる！」と、生活の中で学習したことを生かすこともでき始めた。

宿題に関しては、放課後支援の場で取り組むことができている。夏休みの宿題は仕上げて2学期を迎えることができなかったが、冬休みは自分で計画を立てて早いうちに宿題を仕上げて3学期を迎えることができた。



▲必要な時にタブレットを活用しながら一人で取り組むことができています。

②人前で発表や表現したりすることに関して

作文の学習をした際、タブレットで Word を利用して作文を書いたことは本人にとっては取り組みやすかったようである。普段は iPod touch を利用しているため、使い慣れるのに少し苦労した様子があったが、それでも授業中は投げ出すことなく取り組むことができた。予測変換で自分の思った言葉が表示されたり、漢字変換機能で思い出せない漢字が表示されたりすることが要因の1つであるようだが、特に書き直しをするときに、書き直す内容を先に記入して後から文字を消して調整できるというところが本人には取り組みやすかったようである。

更に作文などの文章作成には、タブレットを使った自分なりの使い方が見られ始めた。

自分の作文だけがプリントアウトされたものになることが気になっていたため、iPod touch で文章を作成し、完成してから作文用紙に手書きで書き込む方法を編み出した。

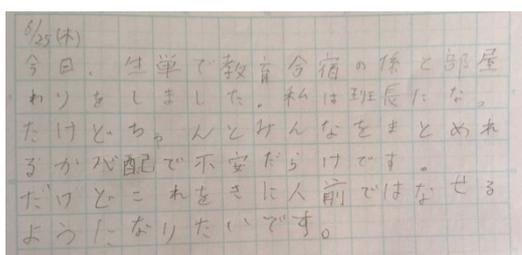
作文用紙に書き込む際は、タブレットは横書き、作文用紙は縦書きなので、書きづらいついて、後で作文用紙に書き込む



▲メモ機能に文章作成をし

のではないかと考えたが、本人は、書いた文章はタブレットの方で消していくなどして、間違えないように工夫をしながら活用をしている。

1泊2日の教育合宿では、自分からきちんと手を挙げて班長に立候補した。昔からやってみたくと思っていた係りだったので、今回挑戦してみたいと本人が話していた。不安もたくさんあったようだが、「これを機にみんなの前で話せるようになりたい」と



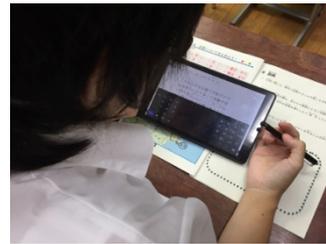
▲係決めをして、班長になった日の日記。

いう思いが日記に綴られていた。入所式で生徒代表の挨拶の担当になり、どのように発表するかを本人に尋ねたところ、「自分の声で発表内容を録音し再生する」という答えが返ってきた。それまでに3つの発表方法を朝の会や帰りの会などで試してみたが、本人は「教師の声で録音して再生」というのを1度も選ばなかった。教師には頼らないで発表したいという思いがあったようだ。

また、和太鼓（Wordaico）での再生を最初は前向きに考えていたが、機械の声というのに違和感があるようで選ばなかった。

日頃から自分の言葉が伝わりにくいと思っているため、自分から話したり発表したりすることに苦手意識を

持っていたが、録音して再生したものを友だちが静かに聞いて内容を理解してくれたのは嬉しかったようである。自分でも「もう、タブレットに頼らず発表できるかもしれない！」という思いが強くなり、教育合宿前日は、「明日、iPod touch 持って行かん！自分で発表する」と意欲的な様子が見られた。しかし、当日は慣れない場での発表ということもあり、準備していたものを再生しながら発表を行った。他学部の生徒や教員のいる中で、タブレットを使って発表したのは初めてであったが、たくさんの人の前でもできたというのは自信となったようだ。



▲挨拶文を Word で作成



▲自分の声で録音したものを再生しながら発表



▲朝のつどいでは、初めて自分の声で発表することができた

この教育合宿では、レクリエーションに自分から積極的に参加する様子があり、周りの友だちや教員を驚かせた。今度こそ自分の声で発表したいという思いが強くなり、翌日の朝の集いでは、タブレットに頼らずに自分の声で発表をすることができた。



▲発表会当日も、自分の役割を果たせた。

録音再生の方法は、自分の声で発表したいという生徒の気持ちの背中を押してくれた取り組みだった。

この教育合宿を機に、司会を務めたり、発表したりすることができるようになり、声もどんどん大きくなった。児童生徒会役員選挙の応援演説も自分から立候補し、友だちに投票して欲しいと、しっかりとした意志で全校生徒に訴えることができた。更に、自分の取り組みを詳しく知ってもらいたいという思いから、2学期の終業式での発表では iMovie を使って写真を編集し、それを流して自分の取り組みを言葉で伝えることができた。



▲自分で作成した動画を流して、頑張ったことを発表した。「大きな声ではっきりと」と自分で意識をしながら発表ができていた。

③しなければならないことの管理に関して

メモをすることで自分がそれをチェックしたら忘れずに取り組むことができるということが理解できており、「あれに打ったらいいんでなァ？」と、自分から言うこともある。

また、「何をしないとイケなかったのかな？」という教師の言葉かけを受けてリマインダーをチェックして落ち着いて確実に取り組んだり、終わったことは消したりするなど管理をすることができている。また、アラームなどの設定方法を取得したことで、大事なことは設定して管理しようとする様子が見られている。

スケジュールに関しても少しずつ管理する様子が見られており、カレンダーに予定を書き込んで、活用する様子がある。



▲リマインダーに「すること」を記入している

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- タブレットは、必要な時に自分で判断して活用できる環境を整えることで、「特別な道具」ではなく、自分の力をサポートしてくれる道具として実感し、活用しながら学習をすすめることができたのではないかと。
- タブレットは、生徒の背中を「できるよ!」と押してくれ、「こうしたい!」と一緒に実現してくれる存在となったのではないかと。特に録音・再生する発表方法が「自分の声をみんなが聞いてくれて分かってくれた」という嬉しい経験となり、「自分の声で発表したい」という本人の気持ちを後押ししたのではないかと。

・エビデンス(具体的数値など)

- ・ 必要に応じてタブレットを使って授業に参加することは、すぐに答えが分かる安心感があり、数学の授業中に諦めるような様子は見られなくなった。また、苦手な数学の中で自分から挙手して発表をするようになった辺りから、他の活動の中でも少しずつ意欲的に参加する様子が見られ、教育合宿では班長に立候補した。

2学期以降は、校内・校外の活動にも目を向け、友だちが参加した検定試験に興味を持ち、「私も来年やってみよう!」と、今から準備をして挑戦したいという様子も見られた。この頃、対象生徒が活用している放課後支援の職員さんからも「最近、褒めた事も素直に受け入れてくれるんですよ」と、本人の学校外での様子の変化を伺った。

また、12月にあったPTAで、保護者さんに発表する生徒の姿を初めて見ていただいた。その翌日の連絡帳には「昨日は、発表を自分でその場でやっていたびっくりしました。先生やお友だちの前では少しは喋れる様にはなっているだけで、まさか…お母さんたちが居てもOKとは進歩していました。もう少し、聞こえるように…と欲を張ってはいけませんよね!」「4月からの連絡帳を読み返しました。学校に行って1日を過ごすことが目標だったんだと思い出し、今は持久走のタイムの目標があったりと…すごいかも!」との感想をいただいた。

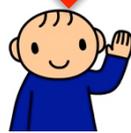
・その他エピソード(画像などを含めて)

もともと写真を撮られることが嫌いで、褒められたり自分の頑張りを認めたりできない様子があったが、写真整理をする際に自分が頑張ったという思いがある場面がないと「あれ?あの写真は?」と教師に写真が欲しいと求めてくる様子も見られた。そして、褒められると素直に受け入れて嬉しそうに笑う様子が増え、写真撮影の際にもカメラに笑顔を向けることが増えている。

自信が持てたことには、「これは今度も大丈夫だと思う。できる!」

と、自分に任せてほしいことを教師にアピールする様子も見られており、毎日を意欲的に過ごすことができている。

数学の授業での発表の仕方における生徒の変化



▲教育キャンプの班長に立候補



▲自分で調べて解決しようとしていたり、教師に質問したりと前向きに取り組む様子が増えた



▲運動会で指揮をする写真は、最初に自分が「頑張った」と認めることができた



▲現場実習の写真は、実習先で「箱折りを安心して任せられる」と褒められたことが自信となり「どんな箱でも、説明を受けたらできそう」と写真を見ながら話した。